

令和5年度 出雲養護学校 学校評価 報告(年度末評価)

学部分掌等	評価計画				目標値に対する実績	自己評価		学校関係者評価	
	重点目標	具体的方策	評価指標	目標値		評価	課題及び次年度への改善策等	評価	学校関係者評価委員(いずよう魅力化協議会委員)からの意見等
小学部	地域に主体的に関わり、感じたことや学んだことを表現する力を育てる授業づくりを推進する。 #地域で生きる人になる #表現力	地域と関わる授業づくりの際に、校内研究のツールを活用し、考えられる地域との関わりや、期待する児童の姿(表現する力)について学年、グループで意見を出し合う検討会を3回以上行う。	小学部教員を対象としたアンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合 『地域と関わる授業の中で、児童が感じたことや学んだことを表現する場面をつくることができたか。』	80%以上	95%	A	・地域と関わる授業がどの学年でも積極的に行われ、単元とのつながりをもたせた取り組みも行われた。一方で、取り組みを通してつけない力が曖昧であったり、年間を通して計画的な取り組みにならなかったりすることもあった。 ・次年度は、地域と関わる授業を通して児童につけない力を明確にし、年間(又は半期)を見通して計画的に単元に位置付ける。	A	・地域とかかわることは賛成です。ぜひ、学年間、学部間で「学び」として、積み上げていただきたいと思います。 ・地域としてできる限り協力していくつもりですが、できるだけ早く年間計画をお知らせいただくと助かります。
中学部	地域の力を取り入れた魅力ある授業を展開して、中学部オンリーワンの学びの創出を目指す。 #地域で生きる力の育成 #オンリーワンの学び	地域の力を取り入れた授業を展開する中で、「表現」や「対話」の場面や、生徒の心が動くような場面について振り返ったり、目指す生徒像を達成するための中学部オンリーワンの学びについて意見を出しあって考えたりする機会を長期休業中に設ける。	学部内、学校アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合 『具体的方策にあげた振り返りや協議を実施して、中学部オンリーワンの学びについて理解を深めることができたか。』	80%以上	92%	A	・地域の力を取り入れた授業を展開する中で、生徒の『探究的な姿』を引き出していくことについて課題が残った。 ・次年度は、主に総合的な学習の時間の中で取り扱うこととして、検討改善した年間指導計画(校外学習の検討も含む)をもとに、工夫しながら魅力ある授業づくりを進めていく。	A	・和太鼓の演奏、感動して涙が出ました。伴奏のない演奏は大人でも難しいと思いますが、一糸乱れぬ演奏、強弱もきちんとついていて、心に響きました。ご指導下さった先生方と山根さんには頭の下がる思いです。伝統になっていけばいいと思います。たくさんの方々にぜひ見ていただきたいです。 ・具体的にどのような課題が残ったのか明示して欲しい。 ・地域とかかわることは賛成です。ぜひ、学年間、学部間で「学び」として、積み上げていただきたいと思います。
高等部	自ら思考・判断し、学んだことを表現できるような地域と繋がりのある探究的な学びを推進する。 #地域で生きる人になる #地域と結びつけた教育活動 #探究的な学び #表現力	総合的な探究の時間を中心に、各教科や教科領域を合わせた学習においても表現活動を取り入れた授業実践を行う。	高等部教員を対象としたアンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合 『総合的な探究の時間、作業学習、生活単元学習、各教科など単元ごとに生徒の表現を引き出すことができたか。』	80%以上	94%	A	・様々な学習で生徒なりの表現を引き出すことができた。様々な表現の形があってよいことを教員間で共通理解していきたい。 ・『総合的な探究の時間』進め方、3年間で積み上げる学びの姿を整理したい。「総合的な探究の時間」を中心に他の教科等の授業においても伴走者としての教員の役割など共通理解を図りたい。	A	・学習発表、素敵でした。さすが高校生！という内容でした。今後も学ぶことの大切さ、楽しさを感じてほしいです。 ・様々な表現の形があってよいことを共通の理解としていく、ということに共感します。その立脚点が「障がい」ではなく、「子どもの多様な育ち」や「すべての人の生きる安心」(例えば「自分の母語で表現できる」ということ)であることが、高等部の教育としてはもちろん、広く社会・地域に向けて変化を促していくことに繋がると考えます。 ・探究の時間への取り組み、ご苦勞様でした。この学びを通して、生徒たちは確実に成長することを目の当たりに出来ました。他教科との関連性、行事との関連性いろいろと検討の余地はあると思いますが、生徒たちが主体的に考え、行動し、広い世界に触れられる経験が出来る素晴らしい取り組みだと思いました。 ・地域とかかわることは賛成です。ぜひ、学年間、学部間で「学び」として、積み上げていただきたいと思います。
肢不自由・訪問グループ	肢不自由のある子どもたちのキャリア教育の充実を図る。 #地域で生きる人になる #12年間を通したキャリア教育の推進	キャリア教育段階表を活用して個々の指導内容を捉え直すことにより、個々に必要な学習内容を明確にし、授業実践や指導計画作成に生かす。	キャリア教育に視点を当てた話し合いを月1回行う。	年間5回以上実施	100%	A	・話し合いを通して、キャリア教育の視点で指導内容を捉え直し必要な学習内容について情報共有を図ることができた。 ・次年度に継続して取り組む必要がある内容については、次年度の学習計画に反映していく。	A	・学習発表、大変感動しました。児童さんの頑張りはもちろんですが、ご指導下さっている先生方の楽しそうな姿も印象的でした。まずは大人が楽しむ姿を子供たちに見せることが大事だと改めて思いました。 ・年間を通した取り組みや授業の様子を拝見したわけではありませんが、キャリア教育の視点で指導内容を捉え直す、という取り組みに、12年間を通した育ちへの伴走、また「人間が生きる」ことへの眼差しを感じる事ができました。キャリア形成に関しては社会的な制度や取り組みに左右されるところが多いと想像します。他校や行政、公的機関や民間団体などとの協働の現状、またそこにある課題などについて、魅力化協議会や外部の会議・行事等でも発信・共有いただければ、大変有り難いです。
大田分教室	地域と連携した授業実践を行うことで、探究的な学びの姿を引き出し、カリキュラム編成に繋げる。 #地域で生きる人になる #地域との連携 #探究的な学び	地域と連携した授業を年間1～2回研究授業として実施し、研究協議において児童生徒の探究的な学びの過程やカリキュラム編成について検討する。	大田分教室教員を対象にしたアンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合 『児童生徒の探究的な学びの姿を教職員で共通理解し、生活単元学習を中心に年間指導計画を見直すことができたか。』	80%以上	100%	A	・各教科や行事を含めた横断的視点での年間指導計画を適宜見直した。 ・探究的な学びの姿を引き出すための、地域の活かし方(特に地域の人との関わり)を工夫する。	A	・大田のうなぎの学習発表、大変感心しました。生徒たちも学ぶことの楽しさを実感したのではないかと思います。
遼摩分教室	地域や身近な人との関わりの中で、生徒が自分の良さ(個性)に気づき、その良さを表現することができる力を育成する。 #地域で生きる力の育成 #表現力	学習活動を通して、地域の人的資源、物的資源を積極的に取り入れ、生徒が課題意識をもち、課題解決に向けて考え、その成果を表現できる学習を展開する。	成果を表現できる学習の実施	年3回以上	100%	A	・いろいろな場面でたくさんの方々に知ってもらい、認めてもらえることは生徒たちの励みになるので、それをもっと生徒たちに伝える工夫をしていく。 ・生徒の実態に応じた個別の支援や学習の経過や成果がわかる掲示を工夫する。	A	

雲南分教室	地域や学校での体験的な活動を通して、主体的に行動したり、課題を見つけて改善したりしようとする生徒を育成する。 #地域で生きる人になる #地域で生きる力の育成	・取り組みの中で、自分なりの感想や考えをもてるようにワークシートを工夫したり、様々な相手との対話を通して、自分の考えを表現する場を設定したりする。	地域への取り組みを各学年で2単元以上設定する。	年間、各学年2単元以上	各学年2単元+全体2単元	A	・生徒の実態に応じて、生徒が興味をもって主体的に取り組めるような題材設定をすることが難しく、教員主導になってしまった。 ・1年生の早い時期に地域調べなどの単元を設定し、地域について興味関心を向ける学習を計画する。 ・次年度に向けた大きな柱(テーマ)を決めておく。(地域課題の解決に向けて) ・地域への取組は担当が中心となるが、生徒が主体的に取り組めるように分教室全体で協力する。	A	・もし、ご検討をいただけるのであれば、雲南市や、キラキラ雲南、30夢クラブ等地域の活動と連携をしていただけると幸いです。
みらい分教室	身近な人との関わりを基盤にして、地域(ヒト・モノ・コト)と関わりながら探究的に学び、分かったことや自分の考えを表現する力を高める。 #地域で生きる力の育成 #探究的な学び #表現力	語彙力や書字などに弱さがあったり、表現することに自信がもてなかったりする児童生徒に対して、自分の気持ちや考えを言語化し、可視化して残していくことなどに繰り返し取り組み、表現力を引き出し高める。	・児童生徒アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合『地域と関わって分かったことや自分の考えなどをまとめたり発表したりするときに工夫できたか。』	80%以上	100%	A	・地域と関わった学習を各学年に応じて実施することができ、児童生徒アンケートからもまとめや発表で自分の考えを表現できたことがうかがえた。 ・ICTを活用して学習の振り返り、発表に意欲的に取り組んだ。しかしスライドを作ることに夢中になり、さらに学びを深めることには課題が残った。 ・来年度教科書が変わるため(小)カリキュラム・マネジメントをしながら地域と関わる学習の中で直接体験できることを取り入れる。 ・まとめ方についてのアンケートでは「見本があるとよい」という意見が多かったので、見本を複数提示し、自分で選択して表現できるようにするなど探究的な学びにつなげていきたい。	A	
総務部	危機管理マニュアルや防災の取組について校内への周知を図り、安心・安全な学校づくりに努める。 #防災 #地域との連携(神西地区)	避難訓練や県の防災の取組に合わせ、本校の危機管理マニュアルの要点や防災の取組について、教職員に向けた情報発信をメールやHPで行う。	避難訓練や県の防災の取り組みに合わせて情報発信を行う。	年10回以上(分教室を含む)	10回	A	・防災に関する校内への周知については、避難訓練や県の取組に合わせて計画的に実施できた。 ・PTA活動の一環として避難訓練見学を保護者に案内し、訓練の様子を見学してもらうことができた。 ・業務分担に偏りがあったため、防災担当だけでなく、総務部員で平等に分担して取り組む必要があった。	A	・災害発生時には、地域住民の指定避難所としてよろしく願います。
教務部	児童生徒の好きなことや良さを生かした教育活動、探究的な学びを通して地域と結びつけた教育活動に対する取組の充実を図る。 #オンリーワンの学び #地域とのつながり	児童生徒の好きなことや良さを生かした教育活動、探究的な学びと地域を結びつけた教育活動を意識して計画的に取り組めるよう年間指導計画新様式への記入の方法を示し、前後期で振り返る機会の設定を行う。	教職員アンケートの回答「良い」「概ねよい」の割合『児童生徒の好きなことや良さを生かした教育活動、探究的な学びと地域を結びつけた教育活動について学習計画の作成、振り返り等を行い、実施することができたか。』	80%以上	95%	A	・地域と結びつけた学習内容を意識して計画を立てることができるよう年間指導計画新様式への記入の方法を手引きに明記し説明を行った。また、年間計画について振り返る機会の設定を行った。 ・校務支援システムで作成の年間指導計画について、不具合や変更があり、作成時混乱する点があった。来年度に向けて、作成の手引きについて変更点等の整理を行う。	A	
生徒指導部	友だちや地域の方々々と適切にかかわり合いながら、児童生徒1人1人が自身の良さを発揮できるような学校行事等の運営や支援をする。 #オンリーワン#地域との連携	イズユウフェスタ等の学校行事や生徒会活動を通して、友だちや地域の方々とかかわることができるように、児童生徒の発達段階に応じた活動内容や活動方法を設定していく。	教職員アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合『児童生徒が友だちや地域の方々々と適切にかかわることができる学校行事等の運営や支援ができたか。』	80%以上	95%	A	・運動会・体育祭(中、高)では、事前に係活動の内容を示すことで、競技の準備片付け等を生徒が主体となって取り組めた。 ・行事における地域との関わり方について方針を十分に伝えることができていなかった。 ・地域の方々との関わり方について、次年度の実施計画に記載し計画、準備ができるようにする。(事前学習で学んだものを発表する、交流のある方に招待状を出す等)	A	
寮務G	身近な人との関わりや地域を意識した取り組みの中で、感じたものを伝えようする力を育む #表現力	将来の生活につながると捉えられるような係活動や舎生会活動で生徒の意見や感想を引き出し、HPで発信する	HPを更新した回数	月2回以上	月2回以上	A	・今年度前半は、指導員が生徒の感想を聞いて記事を作成していた。中間評価以降は生徒自身が発信したいことを、iPadを使ってHP記事を作成できるように環境を整えてサポートした。来年度はさらに生徒自身が直接発信する記事を増やしたい。	A	・生徒自身が直接発信していることは知りませんでした。非常に素晴らしい取り組みだと思います。
進路支援部	進路に関する情報発信の充実を図る。 #地域で生きる人になる #ホームページ	ホームページ等を活用して、保護者・関係機関等に向けての情報を発信する。	進路情報の発信回数	年3回以上 *各学部、分教室	年3回以上(各学部、分教室)	A	・年間に更新する内容を年度初めに確認していたが、実施後すぐに更新ができなかったり、図書情報部への連絡がうまくいかず更新が遅れたりすることがあった。 ・次年度は、分掌会で今後のHPの更新予定や更新状況を確認しながら、部内で連携を図っていく。また更新回数をさらに増やしたり、進路コーナーの内容の充実を図ったりしていきたい。	A	

研修部	校内研究の取組を通して、児童生徒の「探究的な学び」の実現を目指す授業作りを検討する。 #地域で生きる人になる #地域で生きる力の育成	研究ツールの活用して、「探究的な学び」を意識した授業作りに、各研究グループで年に1回以上取り組む。	教職員アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合『校内研究の取組を通して、児童生徒の「探究的な学び」を引き出す授業を検討することができたか。』	80%以上	93%	A	・各学部での授業実践を共有する機会が少なかった。児童生徒の実態に応じた探究的な学びの姿や授業について共有する機会などを設ける。 ・令和5年度外部講師研修会から学んだことを授業づくりにつなげていく。 ・カリキュラム・マネジメントの視点をもって、行事や校外学習と授業の関わりを考えた授業の計画がたえられるような仕組みを検討する。	A	・ぜひ、学会や書籍などで全国にPRLしてください。
相談支援部	児童生徒の強みを生かした支援の充実を目指し、校内支援会議の円滑な活用と運営について見直し、地域の学校へも情報提供する。 #オンリーワンの支援 #センター的機能	校内支援会議の迅速な実施や、児童生徒に応じた支援をチームで考えるために、情報共有の資料や記録進行等の運営方法について見直しを行い改善ポイントを整理する。また、整理したことをホームページの「教育相談」のページで発信する。	校内支援会議実施後の分掌部会(6月～1月)で改善ポイントを報告・確認・協議する。	8回	8回	A	・校内支援に関する各種会議や相談について、運営や記録の改善を図った。 ・今後は、ニーズや目的に応じて積極的な活用となるよう、利用にあたっての手続き等について整理・見直し、校内周知を図る。 ・改善のポイントをまとめたものを、2月中にホームページで配信予定。	A	・学校見学では、最初の電話応対から実際の見学、保護者への説明など丁寧に接していただけ良かった。
図書情報部	校内のICT機器・図書館の活用推進に繋がる情報を積極的に発信する。 #ICTを効果的に活用した授業づくり	活用推進に繋がる情報発信のために、校内ミニ研修の設定、ICT機器活用に関する通信の発行、図書館便りの発行等を行う。	ミニ研修実施・通信発行回数	24回以上 (部員数+情報・図書各通信学期1回×3)	29回	A	・ICT活用推進研修や部員によるミニ研修を通して、部員のスキルアップと教職員へのICT活用に関する情報発信ができた。 ・目標回数通りにICT機器活用に関する通信、図書館だよりの発行ができた。 ・次年度も、ICT・図書館活用に関する情報を発信していくために、各部ごとに適した時期や方法(ミニ研修・通信など)を整理しながら取り組む。	A	
保健部	地域で生きる人になるために、自分から健康な生活を送ろうとする児童生徒の育成に向けて、自分の歯と口の健康について意識したり関心をもったりできるような学習を支援する。 #地域で生きる力	各学部で生活経験や実態に応じた歯と口の健康に関する学習に活用できる掲示物や動画等の教材や情報の提供を行う。	学級アンケートの回答『歯と口の健康について保健部が提供する動画教材や掲示物、情報提供によって得た教材を視聴、活用してもらえたか。』の割合	70%以上	52%	B	・掲示物や動画視聴についての評価を行ったところ、実績としては低くなった。各学部学年の実態に応じた授業を通した歯と口の健康に関する学習の取組もあり、児童生徒の歯と口の健康への関心は高めることができた。 ・次年度に向けて、健康教育は引き続き歯と口の健康を重点目標として引き続き各学部学級に情報提供していきたい。壁面掲示による情報提供は掲示場所選定や実態に応じた掲示物提供が難しいので、学年学級単位で利用しやすい動画の情報提供や絵本の紹介など工夫をしていきたい。	B	・次年度に向けた改善点が既に見つかっており、協議会でも議題に上がり、ご意見をいただきましたので、次年度に期待しています。 ・歯と口の健康は健康教育としてだけでなく、社会生活を行う上でのマナーとしても児童生徒に身に付けさせたい生活習慣だと思います。引き続きよろしく願います。 ・岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科の活用を検討してもよいかと思いました。 ・目標値に対する実績のパーセンテージは、達していないが自己評価を見る限りは、Aに近いのでは。
地域連携推進部	出雲養護学校のランドデザインをふまえた教育活動について、地域への効果的な情報発信を推進する。 #オンリーワンの発信 #地域で生きる人になる	新しい校報のあり方の検討、学校ホームページやマスコミの効果的な活用等を通して、「オンリーワンを見つける」取り組みを地域にわかりやすく発信する。	教職員アンケートの回答の「良い」「概ね良い」の場合『「オンリーワンを見つける」取り組みについて、校報や学校ホームページやマスコミ等を活用し、地域にわかりやすく発信ができたか。』	80%以上	90%	A	・新しい校報では、掲載する写真を増やしたりコメントを簡素化したりして、本校の取り組みをわかりやすく効果的に発信することに努めた。 ・次年度は、増加している地域連携に関わる取り組みを整理する仕組み作りを進めながら、情報発信をさらに積極的に行っていく。	A	・以前に比べて、非常に見やすく、魅力的に感じます。 ・いずも多文化ひろばでは大変お世話になりました。「インクルーシブな場」「誰にでも開かれた場」を社会に広げていく、というコンセプトに賛同いただいたうえでのご協力・ご支援ということが、大変有り難かったです。これまで以上に多くの方々に出雲養護学校を知っていただけたと思いますし、『『多文化』だから安心して行ける場所だと思って参加した』という在校生(の保護者さん)のお声は、何よりも有り難いものでした。「多文化」だけでなく、ミッションである「共生社会の実現」と地域連携が具体的にどのような成果(変化)を生み出しているかを、さらに発信していただけると有り難いです。 ・自己評価の欄に第2回魅力化協議会で委員と先生方と話した内容が反映されていて良かった。 ・広報「じんさい」への掲載について可能な限り協力します。(発行:奇数月の第4木曜日)
事務部	就学奨励費支弁区分を早期に決定する。	支弁区分決定に当たって、保護者の個人番号(マイナンバー)の利用を促進することにより、事務処理の簡素化を図り、早期決定を行う。	9月末日時点の支弁区分決定率	90%以上	84%	B	(課題) 1 書類の記入内容の不備への対応 2 長期欠席者に対する提出の働きかけ(改善策等) 1 期限に間に合うよう早期提出をより一層働きかける。 2 担任との連携を密にして書類の早期提出に努める。	B	・お疲れ様です。 ・事務部に関しては、保護者の方の対応もあると思うので、達成値の設定は、80%程度に下げてもいいのでは。

<p>学校関係者評価委員 (いずよう魅力化協議会委員) 総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価・保護者アンケート集計結果共に、高い評価を得ており、学校として、非常に優れていると思います。 ・今年度は、勇気あるB評価 Aに値すると思ってます。 ・目標値を上回る実績となっており、子供たちへの熱心さや学びの充実さが伝わります。 ・評価については、ほとんどがA評価で頑張っていると思います。目標値に対する実績もほとんどの項目で大きくクリアしておられるので、さらなる高みを目指すためにも目標値を数ポイントでもアップしてみるのも良いのではないと思いました。 ・先生方の自己評価はAを付けておられる項目ばかりで、本当によく頑張っておられるなあと感心しております。 ・成果と共に課題点や改良点など含め、しっかり意見や議論を交わされ、都度きちんと整理されており素晴らしいと思います。 <p>・全体的に探究心を大切にされた学習ができていていると感じられ、子供たちの主体性も育てられているなと思います。今年度は地域とのつながり、実践活動が、さらに広がったように感じます。地域での学校や子供たちの理解が得られ、地域から出雲養護学校に求められるようになるとう嬉しいですね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、地域との連携、地域の力を取り入れた授業等、積極的に取り組まれたことを高く評価している。「地域で生きる人になる」という目指す児童生徒像の実現に向けて、着実に実績を上げていただきたい。 ・対外的な活動や開かれた学校運営も意識高く、学校の取り組みがよく分かります。生徒の皆さんもとても良い経験をされており、正に「魅力」のある校風を感じます。引き続き、お世話になりますが、地域団体として協力体制を持って、これからも参画させていただきます。 ・他校の取り組みを十分に知っていないので比較はできませんが、少なくとも出雲養護学校さんの学校運営は、特別支援教育、学校教育分野だけでなく、社会の一つの存在として、「インクルーシブな社会」づくりをリードしてくださっていると思います。常に「チャレンジ」の姿勢を忘れないという今年度の取り組みは、先日の第3回協議会での学習発表表や、そこに関わられた先生方や委員さんのお声を聞かせていただくだけでも、ミッション・理念・目標を共有しながら1年間進めて来られた成果を十分に知ることができました。 ・私自身は「いずも多文化ひろば」の開催に当たって、本当にお世話になりました。このような出雲養護学校の取り組み自体が、そして児童生徒の皆さんの学びと育ち自体が、より多様な人に開かれた社会へと地域を変化させている、地域を開いていっていると感じています。今後は、スクールミッションであるセンター的機能が、特別支援教育としてのみならず、社会がよりインクルーシブになっていくために機能していく(これは多分に外からの認識が変わる必要があると思いますが…)ことを期待します。そのための広報・情報発信方法の工夫なども、また次年度一緒に考えていけたらと思います。 <p>・地域との関わりを中心に据えた取り組みは、マッチングが徐々に上手く行くようになってきたのではないかと思います。運営協議会が、学校のニーズに応えられるな実行力のあるチームになっていけるよう頑張らなければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の委員さんがそれぞれの立場で積極的に協力しようという姿勢が見られ、今回の協議会で会長が言われたようにWIN-WIN-WINの関係が築いていけたらと思います。コミセンとしても、交流事業や情報発信など引き続き協力してまいります。 <p>・以前のように文書を読まれるスタイルより、2回目の会で実施した「ヒントをもらいたいこと」を話し合うスタイルとても良いと思いました。学校評価に関しての文書を読み各学部分掌等の意見等を書いて下さいと言われてもかなり難しいように思いますので2回目の会で「ヒントをもらいたいこと」を何班かに分かれて話し合いをしましたが、その話した内容が、各委員の意見等として年度末評価に記入していただければ、それにかぶせた形で意見が書けるので、書きやすくなるのではと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報として各学部、各教室等の生徒数や職員数等を書いてもらうと良いかなと思いました。(人数によって%等の見方が違って来るから) ・年度末評価のところで、後期チャレンジしたことのアンサーが、もっと書いてあれば良かったです。 <p>・先日も子どもたちの発表を目の前で見ることができ、感激しています。発表する子ども達のドキドキとやり遂げた満足感、そしてそれを支えた先生方の緊張感全てよかったです。一般の(保護者・教員・関係者以外の)方々にも生で見てもらえる機会が多くあるといいなと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この子らを世の光に」の精神で、出養の学習、生活の様子を地域に発信していただきます。そして、何より「あかるい子なかのよい子たくましい子」を目指して日々の授業の充実にご努力ください。 ・図書情報部でのICT活用研修の取り組みを受けて、ICTの授業への活用が一層進んでおり、先生方のスキルの高さと生徒たちの活用している姿に感心させられました。 <p>・福島校長先生のリーダーシップのもと、素晴らしい学校運営がされていると思います。規模の大きな学校ですので、いろいろと大変なこともあると思いますが、島根県の特別支援教育の中心として、これからも島根県を引っ張っていただけますようお願いいたします。</p>
<p>校長より</p>	<p>学校運営協議会の委員の皆様から年度初めに、「A評価にこだわることなく、失敗を恐れずチャレンジを！」と力強いメッセージをいただいたことが、今年度の学校の取組の大きな後押しになりました。委員の皆様には、第三者としてではなくもう一歩踏み込んで、学校と地域を直接つなぐという役割を担っていただきました。協議会では、「(無理かもしれないけど)やったらおもしろそうなこと」について活発に協議していただき、そこで出たアイデアがいくつも実現していきました。「地域と関わる学びをとおして、子どもたちが確実に成長することを目の当たりにした」というご意見のとおり、教職員も刺激を受け新たな学びがたくさんあった一年となりました。</p> <p>来年度への提案もいただいております。年間計画や学年ごとの積み上げなど、カリキュラムマネジメントの観点からも重要な視点だと受け止めております。できることから取り組んでまいります。</p>